



法学部長  
中島 康予  
Yasuyo Nakajima

## 自分自身の確かな歩みを刻むために

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。そして皆さんがこの日を迎えるまで、皆さんを支え、ともに歩いて来られたすべての方々に心からお祝いを申し上げます。

「グローバル化」が進展し、異なる価値や利益を追求する人びとの交流を促進したり、そこに生じる紛争や対立を未然に防止したり解決する、新しい法の形を考えなければなりません。法学部で学ぶ皆さんが、多様な機会を逃さず、世界を広げ豊かなものにしていくことが求められるのも、このような課題に応えるためです。世界を広げるとは世界を批判的に捉えることを意味します。この作業こそ学問的探究です。学問と聞くと、皆さんの生活や人生と切り離された営みのように感じるかもしれません。しかし、この営みは、皆さんの大学生活そのものと言ってよいでしょう。というのも、自身にとって都合のよい、わかりやすい世界像を描き、そこに自閉するのではなく、あたりまえの世界を疑い、世界の複雑さと向き合い、新たな知見や異なる価値観を抱く人びととの出会いをおそれず、他者と自分自身との関係性を見つめていく営みだからです。

今ある関係性を壊さないために、近道をしたり、楽な道をいくという選択は自由な選択とは言えません。半ば強要され、こうした選択を重ねることは、そのような存在として自身を承認し、皆さん自身を貶めることにもなりかねません。皆さん自身の確かな歩みを大切に、中央大学のキャンパスに刻んでほしいと願っています。



経済学部長  
谷口 洋志  
Yoji Taniguchi

## 自分が望む「自分」となるために

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

皆さんは小さい頃からいろいろな夢や希望を持ってこられたことでしょうか。大学生生活も夢や希望の一部かもしれません。もちろん、たかが学生生活4年間と思っておられる方もいることでしょうか。

はっきりしていることは、目指すもの(目的や目標)がなく、目前の事柄を乗り切ることをだけをしていては、何年経ってもほとんど何も変わらない自分、あるいは夢や希望がどんどん遠ざかっていく現実を思い知るだけだということです。夢や希望に少しでも近づくには、そして自分を変えるには、自分を変えようという意志とそのための行動・計画が欠かせません。

私は小さい頃、人前で話しをするのが苦手ですぐに赤面していました。文章を書くのも苦手で、長い文章を書いたこともありませんでした。ところが今では、毎日何度も人前で話をする機会があり、毎日長文の文章を書く生活が続いています。メールを含めると、毎日少なくとも1万字以上の文章を書いています。

自分が変わったのは、大学時代でした。大学時代を境に私は、180度といってよいほど変わったのです。そのきっかけは、多くの人との出会いでした。大学時代の友人・知人達との出会いがなければ、自分は変わることができなかったかもしれません。

皆さんは、ご自身の大学時代をどのようなものにしたいでしょうか。目的は違っても皆さんそれぞれにとって有意義な4年間になることを願っています。